

第6章 城端線・氷見線沿線地域公共交通網形成計画

6.1 課題の整理

(1) 城端線・氷見線の課題

① 沿線人口の減少及び少子高齢化

平成27年国勢調査結果によると、城端線・氷見線の沿線4市の総人口を合計すると320,444人となり、昭和60年をピークに減少傾向が続いており、推計でも長期的な人口減少が見込まれる。

0～14歳の年少人口及び15～64歳の生産年齢人口が継続して減少傾向にある一方、65歳以上の老年人口は平成27年度以降10万人前後で推移すると推計されている。

城端線・氷見線ともに近年の総利用者数は増加傾向にあるが、今後の沿線地域の人口減少、少子化の中で、利用の中心となる定期利用者の減少が懸念される。

② 城端線・氷見線間のアクセス改善

高岡駅を跨がって両線を利用する利用者数は、城端線・氷見線の日あたり利用者数の10%程度となっている。新幹線新高岡駅を拠点とした首都圏方面と沿線地域の交流人口の拡大が期待される中で、新高岡駅から砺波・南砺方面のみならず、氷見・伏木方面へのアクセス改善を図ることは、新幹線開業効果を沿線地域に最大限に波及させるためにも、重要な課題である。

③ 車輜やレールの老朽化

車輜やレール等鉄道施設は老朽化が進んでおり、安心・安全な運行確保に向け計画的な維持管理・更新が必要である。

④ 北陸新幹線との乗継ぎの改善

城端線・氷見線は、これまでの通勤・通学の日常利用に加え、北陸新幹線の開業により新たに新幹線を介した広域交流の裾野を広げる役割を担っている。一方で「北陸新幹線との乗継ぎ」に関する利用者の満足度はまだまだ低く、新幹線新高岡駅の利用拡大を図るためにも、新幹線との乗継ぎ利便性の向上を図っていく必要がある。

(2) 地域公共交通網の課題

① 鉄道、バス、路面電車等への乗継ぎの改善

城端線・氷見線ともに「鉄道・バス等との乗継」に対する満足度が低い。異なる交通手段を繋ぐ乗継ぎの改善が必要である。

② バスの運行ルート、ダイヤと利用者ニーズの不一致

公共交通利用の観点で、バスのダイヤや運行本数、バス停と自宅や目的地との距離が離れているなどの運行ルートに関する不満が大きいため、ニーズに合わせた改善が必要である。

③ 広域バスネットワークの活性化

複数の自治体をまたがる生活路線として利用可能な広域バス路線は、国、県道等主要な道路を運行しており、鉄道を支えるバスネットワーク活性化に向けた検討が必要である。

④ 観光目線での公共交通網の整備・サービスの提供

観光列車べるもんたが運行されるなど、公共交通利用を前提とした観光モデルに注目が集まっている。鉄道、バスを乗り継ぐ観光周遊ルートの作成など、公共交通網の整備が求められるほか、観光案内サインやパンフレット、公共交通マップの作成、インターネットの乗換え検索システムのサービスなど、情報提供・情報発信に関する積極的な取組みが必要である。

(3) 駅施設、駅周辺の課題

① 駅舎、駅周辺の利便性向上

自動車等から公共交通利用に転換できない理由として「自宅や目的地が駅から遠いこと」が多く、自宅から駅、駅から目的地までの交通手段の確保を図ることが必要である。

② 駅舎のバリアフリー化など利用環境の改善

「駅施設の快適さ」に対する満足度が低く、バリアフリー化や老朽化の対策など、駅舎の利用環境の改善を図ることが必要である。

③ 駅周辺の駐車場ニーズに対する対策

駅周辺に自動車駐車場が少ないことに対する課題がある。自動車以外の駅への交通手段の確保に加え、実情に合わせた駐車場整備の検討や、既にある駐車場の周知等の対策が必要である。

④ 運行状況、乗換え案内等の情報提供の充実

情報提供に対する関心が高いことから、これまでに整備された施設や路線等を有効に活用するため、運行状況や乗換え案内等の情報提供を充実させる必要がある。

⑤ 観光客の利用を考慮した駅施設整備

駅から観光地へのルート案内や乗換え案内、待ち時間に利用できるお土産物施設や観光情報発信ツールなど、観光客の利用を考慮した駅施設の整備が求められる。

(4) 利用者増加への課題

① 公共交通を利用する機会、動機が少ない

公共交通の利用者数増加に向け、公共交通に乗ること自体を目的と出来るような施策や、乗車機会や目的地の創出、情報提供等を検討する必要がある。

② 通勤・通学など日常利用者にとっての利便性向上

沿線地域の公共交通利用者の多くは通勤・通学目的の日常生活利用者である。朝夕の通勤・通学時間帯など、日常利用者が多い時間帯での利便性の高いダイヤ、乗り継ぎなどを検討していく必要がある。

③ 利用目的となる駅周辺や沿線観光地の魅力向上

平成28年12月に、新たに「高岡御車山祭の御車山行事」、「城端神明宮祭の曳山行事」がユネスコの無形文化遺産登録を受けるなど、沿線には歴史や文化を反映した観光地、観光施設が数多く立地している。一方で、五箇山合掌造り集落やひみ番屋街等、集客力があるものの鉄道駅から離れている観光地も存在することから、公共交通によるアクセス充実を図り、観光客の増加を公共交通の利用増加に繋げていく対策が必要である。

④ 利用者マナー向上、駅美化、沿線の景観づくりなど、愛着の造成

利用者マナーの向上や駅の環境美化活動、駅周辺の花の植栽、車窓から見える沿線の景観づくりなど、地元駅に対する愛着の造成を図る取り組みを行うことで、公共交通の利用意識の改善を図っていくことが必要である。

6.2 計画の基本方針

計画の全体方針

地域に利用される交通ネットワークの形成 ～城端線・氷見線沿線地域の自立的な発展を目指して～

基本方針1 【生活利用の視点から】

日常生活の足として利用される利便性の高い公共交通の実現

JR 城端線・氷見線を始めとする沿線地域の公共交通は、通学・通勤利用者を中心に、従来から沿線住民の日常生活の足として多くの方に利用されている。日常生活における移動手段として、地域生活者にとって利便性の高い、満足度の高い公共交通網の形成を目指す。

基本方針2 【広域交流の視点から】

沿線地域の発展に繋がる交通ネットワーク網の形成

平成 27 年に北陸新幹線が開業し、首都圏と沿線地域が新たに新幹線新高岡駅によって結ばれ、沿線地域の公共交通は、新たに広域交流の裾野を広げるツールとしての役割を担っている。ビジネス目的や観光目的など、多くの方に、分かりやすく利用しやすい交通ネットワーク網の形成を目指す。

基本方針3 【将来のまちづくりを見据えて】

人口減少社会を見据えた、公共交通を中心としたライフスタイルの定着

少子高齢化、人口減少が進む中、都市機能の配置や再開発など、まちづくりを進める上で公共交通との連携は欠かせない視点である。都市と居住エリア、沿線地域間を結ぶ移動しやすい公共交通ネットワークを確立することで、自動車依存からの脱却を図り、公共交通を中心としたライフスタイルの定着を目指す。

6.3 計画期間と対象区域

本計画は平成 29 年度から 5 年間を対象期間とする。(平成 29 年度～平成 33 年度)
計画区域は、城端線・氷見線沿線 4 市で、氷見市、高岡市、砺波市、南砺市とする。

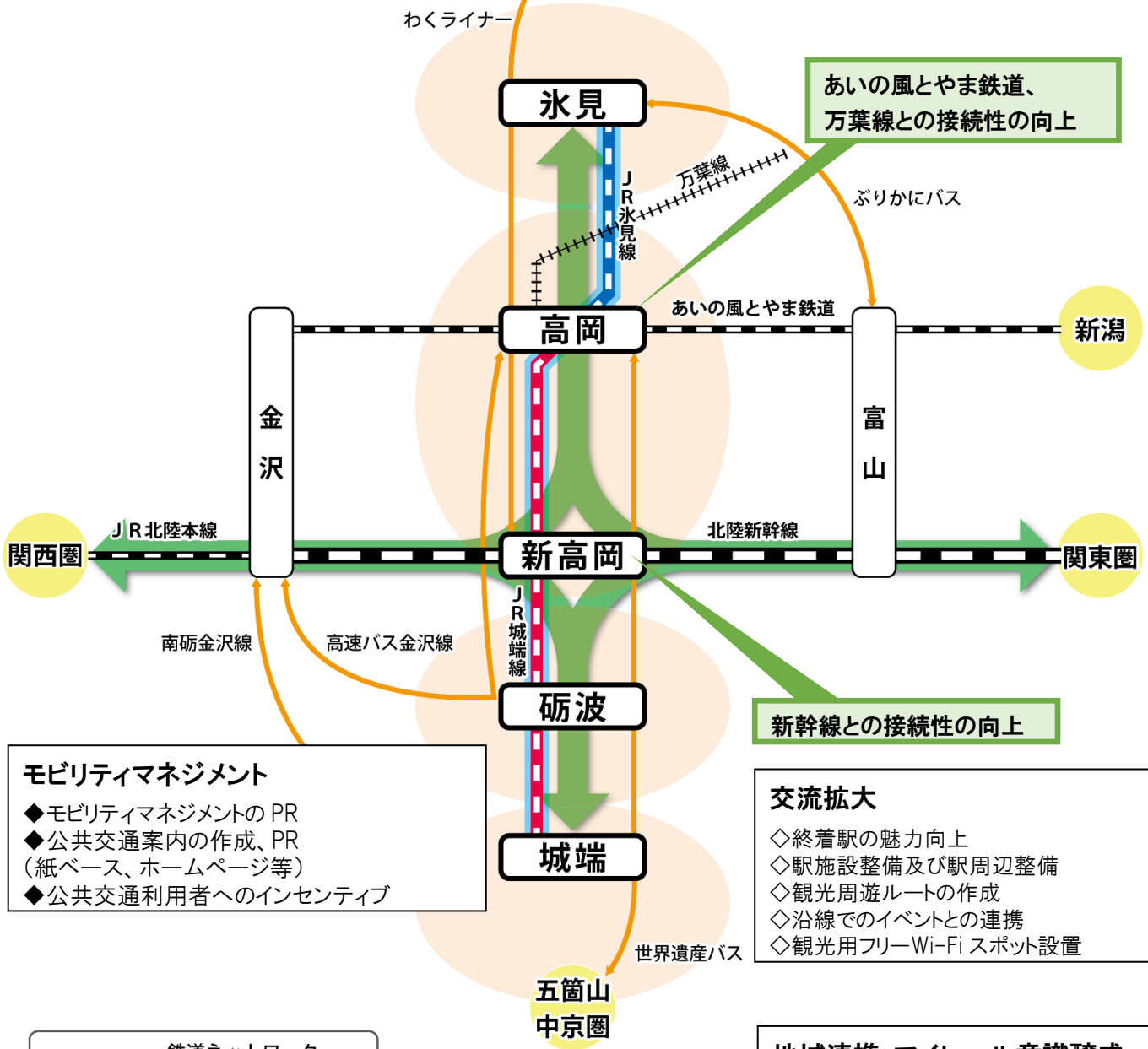
6.4 計画が目指す交通網のイメージ

城端線・氷見線運行関連

- ◆ 利用向上につながる車両の検討
- ◆ 新幹線開業後の運行本数増便の検討
- ◆ 交通 IC カード利用拡大に向けた課題整理
- ◆ 城端・氷見線の直通化に向けた検討

公共交通網の形成

- ◆ あいの風とやま鉄道、万葉線との接続性の向上
- ◆ 新幹線との接続性の向上
- ◆ 観光列車等とのタイアップ
- ◆ 利用者ニーズに合わせたバスの運行、ルート、ダイヤの検討
- ◆ 広域バスネットワークとの連携強化
- ◆ 観光路線バスの運行



あいの風とやま鉄道、
万葉線との接続性の向上

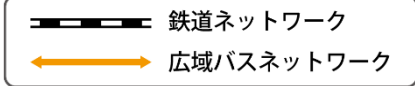
新幹線との接続性の向上

交流拡大

- ◇ 終着駅の魅力向上
- ◇ 駅施設整備及び駅周辺整備
- ◇ 観光周遊ルート作成
- ◇ 沿線でのイベントとの連携
- ◇ 観光用フリーWi-Fiスポット設置

地域連携・マイレール意識醸成

- ◆ 駅施設の有効活用
- ◆ 城端線、氷見線グッズ作成
- ◆ 利用者マナーの向上
- ◆ 駅への愛着醸成
- ◆ 花のある景観づくり



6.5 計画の目標

地域公共交通網形成計画を推進するため、以下の目標を定める。

目標1 城端線・氷見線の1日あたり乗車人員

- ・地域に利用される交通ネットワークの形成に向けた、路線の維持・発展を図る直接的な目標指標

現状値	目標値
10,840 人/日 (城端線：6,387 人/日) (氷見線：4,453 人/日) (集計：平成 27 年度)	10,840 人/日 以上 (集計：平成 33 年度)

【目標値】今後、沿線4市の人口減少率が更に高まることが予測される中であっても、城端線・氷見線の乗車人員は、現状数 10,840 人/日以上を目指す。
 ※沿線4市の人口減少率 H22→H27…約3.5%減 H27→H33…約4.8%減少(4市人口推計より)
 ※現状値では、城端線新高岡駅の乗車人員は 160 人とした(JR 西日本の特別調査による)。
 ※高岡駅の乗車人員は、高岡駅を除く城端線と氷見線の乗車人員数により両線に按分した。

目標2 定期外利用者数割合

- ・定期利用者以外の新たな需要を取り込むための、定期外利用者数割合の増加を図る目標指標

現状値	目標値
城端線：21.9% 氷見線：16.9% (集計：平成 27 年度)	城端線：26% 氷見線：21% (集計：平成 33 年度)

【目標値】定期外利用者数割合を増加させる。
 沿線人口が減少傾向にある中で、通勤・通学等の定期利用者数を維持していくことは容易ではない。定期利用者数が、人口減少と同様の割合で減少すると仮定し、その減少分を、観光利用や沿線でのイベント開催、公共交通の利用啓発等の取組みのほか、鉄道沿線地域での民間開発等の要因も勘案し、定期外利用者を増加させることでカバーする。

目標3 公共交通利用圏域内の人口カバー率

- ・沿線住民が公共交通を利用しやすい環境をつくり、地域全体の公共交通網の形成を図る目標指標

現状値	目標値
71.7% (対象人口：平成 22 年国勢調査 公共交通圏域：平成 28 年 4 月時)	75% (対象人口：平成 27 年国勢調査 公共交通圏域：平成 33 年 4 月時)

【目標値】誰もが地域内を円滑に移動できる交通体系を目指し、鉄軌道駅・バス停から一定の利便性のある圏域内に含まれる沿線人口の割合を高める(公共交通利用圏域は、鉄道駅から半径 1km、軌道駅から半径 500m、バス停から半径 300mと設定する。)

現在、鉄軌道駅付近での市街化区域変更、土地区画整理、宅地造成等が行われている。鉄軌道駅から離れたエリアにおいても、バス路線の再編など、住民ニーズに応じた交通サービスの提供に取組み、公共交通利用圏域内の居住人口カバー率を増やす。

目標4 城端線・氷見線とその他鉄道やバスとの乗継ぎ満足度

- 異なる交通間の乗り継ぎを改善し、利用者の満足度を高める目標指標（5段階評価）

現状値	目標値
<p>城端線：平均評価 2.4 氷見線：平均評価 2.2 （集計：平成 27 年調査）</p>	<p>一定の改善 城端線：平均評価 2.7 氷見線：平均評価 2.5 （集計：平成 33 年調査）</p>

【目標値】沿線住民へのアンケート調査により、「城端線・氷見線と鉄道・バス等との乗継ぎ」に関する満足度の改善を図る（満足度は5段階評価）。平成 27 年度に協議会で実施した沿線住民へのアンケート調査では、「鉄道・バス等との乗継ぎ」に関する満足度が、全質問項目の平均評価点（城端線 2.65、氷見線 2.49）より低くなっている。城端線・氷見線とその他の鉄道、路線バス、高速バス等との乗り継ぎについて改善を図り、交通ネットワーク網の充実を図ることで、平均評価点を上回る満足度を目指す。

目標5 過去1年に利用した交通手段における城端線・氷見線利用割合

- 公共交通を中心としたライフスタイルへの転換を図る目標指標

現状値	目標値
<p>城端線：26.9% 氷見線：13.8% （集計期間：平成 27 年調査）</p>	<p>約 5%の向上 城端線：32% 氷見線：20% （集計期間：平成 33 年調査）</p>

【目標値】沿線住民へのアンケート調査により、過去1年間で利用した交通手段における「城端線・氷見線の利用割合」を上昇させる。（※過去1年間に1度でも城端線・氷見線を利用した人の割合。）

- 観光周遊ルートの作成、沿線でのイベントとの連携等により、これまで利用機会のなかった沿線住民に、城端線・氷見線を利用してもらおうきっかけを作る。
- 新幹線利用者の新高岡駅への移動利便性を高め、ビジネスや観光目的など、日常生活以外の場における、城端線・氷見線の利用機会を高める。
- 高齢者による自動車運転が増える中、運転免許返納者への公共交通利用割引の適用等のサービスにより公共交通利用を中心としたライフスタイルへの転換を図っていく。

6.6 取組事業

(1) 城端線・氷見線運行関連施策

事業1 利用向上につながる車両の検討	
① 実施主体	各自治体、西日本旅客鉄道(株)
② 実施時期	平成29年度～平成33年度
③ 事業目的	既存車両について、ラッピングや車内環境の快適性向上を図ることで、城端線・氷見線への愛着醸成やイメージアップと利用者数の維持向上を目指す。
④ 取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ラッピング列車を活用したイメージアップ ■車内環境の快適性向上の検討

事業2 新幹線開業後の運行本数増便の検討	
① 実施主体	各自治体、西日本旅客鉄道(株)
② 実施時期	平成29年度～平成33年度
③ 事業目的	新幹線開業と同時に取り組んでいる城端線での増便試行運行(1日4往復8便の増便)の検証を通じ、新幹線開業後の観光目的利用者の動向や沿線住民も含めた利用状況等を勘案しながら、日常利用や新幹線の二次交通としての利便性向上を図り、利用者数の維持向上を目指す。
④ 取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ■増便試行の継続実施と効果検証 ■効果検証に基づく運行本数増便の検討

事業3 交通 IC カード利用拡大に向けた課題整理	
① 実施主体	各自治体、各交通事業者
② 実施時期	平成29年度～平成33年度
③ 事業目的	あいの風とやま鉄道区間で利用可能な交通 IC カード「ICOCA」について、城端線新高岡駅でも利用可能となることから(H29.4～)、更なる利用拡大に向け、必要な課題の整理を行う。
④ 取組み内容	■交通 IC カードシステム利用可能エリア拡大検討調査

事業4 城端・氷見線の直通化に向けた検討	
① 実施主体	各自治体、西日本旅客鉄道(株)
② 実施時期	平成29年度～平成33年度
③ 事業目的	城端線・氷見線の直通化に向けた検討を行うため、概算事業費の検証や具体的なダイヤシミュレーションなどを行う。
④ 取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ■課題整理の結果を踏まえた課題の解決調整、直通化に向けた検討調査(直通化概算整備費の検証、ダイヤシミュレーション、運行経費等)

(2) 交通機関に関する施策(主に鉄軌道)

事業5 あいの風とやま鉄道、万葉線との接続性の向上【地域交通】	
① 実施主体	西日本旅客鉄道(株)、あいの風とやま鉄道(株)、万葉線(株)
② 実施時期	平成29年度～平成33年度
③ 事業目的	日常利用の利便性を強化するため、各路線の接続を考慮した運行ダイヤを検討することで相互に利用者数の維持向上を目指す。
④ 取組み内容	■あいの風とやま鉄道及び万葉線との接続を考慮したダイヤの検討

事業6 北陸新幹線との接続性の向上【広域交通】	
① 実施主体	西日本旅客鉄道(株)
② 実施時期	平成29年度～平成33年度
③ 事業目的	広域交通としての利便性を強化するため、新幹線との乗り継ぎ利便性の高い運行ダイヤを検討し、利用者数の維持向上を目指す。
④ 取組み内容	■新幹線との接続を考慮した城端線ダイヤの検討

事業7 観光列車等とのタイアップ【観光交通】	
① 実施主体	西日本旅客鉄道(株)、あいの風とやま鉄道(株)、各自治体、関係団体
② 実施時期	平成29年度～平成33年度
③ 事業目的	沿線地域の魅力を発信するツールとして、観光列車の運行やタイアップ企画等について検討する。地域の魅力発信による観光の振興を図り、定期外利用者数の増加に繋げる。
④ 取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ベル・モニターニュー・エ・メール号での乗客サービスの提供 ■観光客おもてなし企画の検討 ■あいの風とやま鉄道観光列車(H30 予定)とのタイアップ企画の検討 ■関連グッズの検討

(3) 交通機関に関する施策(バス)

事業8 利用者ニーズに合わせたバスの運行ルート、ダイヤの検討【地域生活路線】	
① 実施主体	加越能バス(株)、西日本ジェイアールバス(株)、各自治体
② 実施時期	平成29年度～平成33年度
③ 事業目的	通勤・通学利用者、高齢者をはじめとする利用者ニーズ、沿線まちづくりの動向等に合わせ、必要なバス路線や異なる交通間の乗り継ぎダイヤを検討することで、利便性の向上と利用者数の維持向上を図る。
④ 取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ■運行ルートやダイヤの検討 ■沿線のまちづくりや都市機能の集積と連動したバス路線網の検討

事業9 広域バスネットワークとの連携強化【広域生活路線】	
① 実施主体	加越能バス(株)、西日本ジェイアールバス(株)、各自治体
② 実施時期	平成29年度～平成33年度
③ 事業目的	地域生活路線と、計画区域をまたぐような移動を支える広域バスネットワークとの連携強化により、多様な広域移動路線の確保を図る。
④ 取組み内容	■複数の自治体や県域をまたぐ広域生活路線バスネットワークとの連携強化

事業10 観光路線バスの運行【観光路線】	
① 実施主体	加越能バス(株)、西日本ジェイアールバス(株)、各自治体
② 実施時期	平成29年度～平成33年度
③ 事業目的	既存観光路線バスの利用促進や、新たな観光路線の検討を行うことで、観光やビジネスに資する広域交流の拡大を図る。
④ 取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ■既存観光路線バスの利用促進 ■主要駅発着の観光路線の検討

(4) 交流拡大に関する施策

事業11 終着駅の魅力向上	
① 実施主体	各自治体
② 実施時期	平成29年度～平成33年度
③ 事業目的	氷見駅、城端駅の終着駅としての拠点性及び目的地としての魅力の向上により、利用者数の維持向上と、終着駅から沿線地域全体への観光交流の拡大を図る。
④ 取組み内容	■氷見駅、城端駅について、終着駅としての拠点性向上、目的地としての魅力向上等の方策検討

事業12 駅施設整備及び駅周辺整備	
① 実施主体	各自治体
② 実施時期	平成29年度～平成31年度
③ 事業目的	駅施設や周辺の関連施設を整備することで、利用者の利便性向上と公共交通利用への転換を図る。
④ 取組み内容	■駅施設、付属施設、駅前広場、アクセス経路の整備

事業13 観光周遊ルートの作成	
① 実施主体	各交通事業者、各自治体
② 実施時期	平成29年度～平成33年度
③ 事業目的	城端線・氷見線を活用した観光モデルプランを作成することで、定期外利用者数の増加と観光交流の拡大を図る。今後、増加が期待される訪日外国人旅行者など、海外の需要を取り込むため、多言語対応による交通・観光案内板の整備、パンフレット作成等、海外からの団体・個人旅行者の利用増加に繋げる。
④ 取組み内容	■公共交通利用を前提とした観光モデルプランの作成 ■訪日外国人旅行者向けの情報提供、情報発信の充実

事業14 沿線でのイベントとの連携	
① 実施主体	協議会
② 実施時期	平成29年度～平成33年度
③ 事業目的	沿線の地域資源や観光地、イベント等と連携し、公共交通を介した交流拡大、利用者数の維持向上、乗車機会の創出等を図る。
④ 取組み内容	■城端線・氷見線を利用したイベントの開催促進、支援 ■アニメ等地元資源を活用したイベントの共催、開催支援 ■万葉線との連携イベントの共催

事業15 観光用フリーWi-Fi スポット設置	
① 実施主体	各交通事業者、各自治体
② 実施時期	平成29年度～平成33年度
③ 事業目的	観光客等が利用できるWi-Fiスポットの設置により案内機能の強化や利便性の向上を図る。訪日外国人旅行者にとっても、安心して沿線を訪れることができるよう、受入環境の整備に取り組む。
④ 取組み内容	■Wi-Fi設備の設置

(5) モビリティマネジメントに関する施策

事業16 モビリティマネジメントのPR	
① 実施主体	各自治体、各交通事業者
② 実施時期	平成29年度～平成33年度
③ 事業目的	自動車から公共交通利用への転換を図るモビリティマネジメント手法を取り入れた情報提供やアンケートの実施等により、沿線住民の公共交通利用への意識変容を促す。
④ 取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ■自動車通勤者に対する情報提供やアンケートの実施・公共交通のお試し利用の実施 ■自動車運転免許返納者への公共交通利用割引の適用等サービスの導入・拡充検討

事業17 公共交通案内の作成、PR（紙ベース、ホームページ等）	
① 実施主体	各交通事業者、各自治体
② 実施時期	平成29年度～平成33年度
③ 事業目的	沿線地域の公共交通網に関して、異なる交通手段を含めた広域的な交通マップの作成等積極的な情報提供を行い、公共交通利用への転換を図る。また、訪日外国人旅行者向けの多言語対応による交通・観光案内板の整備、パンフレット作成等に取り組み、受入環境の整備を図る。
④ 取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ■バスと連携した時刻表の作成 ■沿線公共交通マップの作成 ■駅施設のバリアフリー対応に関する情報提供 ■バス時刻表、乗換え案内のインターネット検索システムへの反映 ■多言語対応の交通・観光案内版、パンフレット作成

事業18 公共交通利用者へのインセンティブ	
① 実施主体	各交通事業者、各自治体、関係団体
② 実施時期	平成29年度～平成33年度
③ 事業目的	公共交通利用に転換することに意義を見い出せるようなインセンティブ施策の導入を検討し、利用者数の維持向上を図る。
④ 取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ■異なる交通機関利用時に併用できる共通乗車券、定期券の導入検討 ■児童、生徒らの体験学習時の利用支援 ■公共交通利用促進運動等実施事業所への補助方策検討 ■児童、生徒向けのホリデーパス、1日乗車券等

(6) 地域連携・マイレール意識醸成に関する施策

事業19 駅施設の有効活用	
① 実施主体	各自治体
② 実施時期	平成29年度～平成31年度
③ 事業目的	駅や駅周辺施設の整備、利活用について、まちづくりの方向性を踏まえながら検討し、地域の拠点機能としての役割強化を図るとともに、城端線・氷見線への愛着醸成を図る。
④ 取組み内容	■まちづくり拠点としての駅舎、駅周辺施設の整備検討

事業20 城端線、氷見線グッズ作成	
① 実施主体	各自治体、関係団体、西日本旅客鉄道(株)
② 実施時期	平成29年度～平成33年度
③ 事業目的	城端線・氷見線に関するオリジナルグッズを作成、販売することで、話題づくり、愛着の醸成を図るとともに、販売収益による経営安定への寄与を目指す。
④ 取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ■オリジナルグッズの作成等による親しみやすさの向上 ■グッズ販売による収益改善

事業21 利用者マナーの向上	
① 実施主体	協議会
② 実施時期	平成29年度～平成33年度
③ 事業目的	朝夕の通勤・通学時間帯等における利用者マナーの向上を図り、利用者が安心して乗車できる車内環境を創出する。
④ 取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ■利用者マナー向上の車内アナウンス、広告等 ■学校を通じた利用者マナー向上啓発

事業22 駅への愛着醸成	
① 実施主体	各自治体、関係団体
② 実施時期	平成29年度～平成33年度
③ 事業目的	地元ボランティアによる美化活動など、駅を中心とした多様な活動を促進することで、駅や路線への愛着を醸成する。
④ 取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ■地元ボランティアによる環境美化活動 ■駅や鉄道に親しむイベントの開催等、駅周辺に集まる機会の創出

事業23 花のある景観づくり	
① 実施主体	各自治体、関係団体
② 実施時期	平成29年度～平成33年度
③ 事業目的	城端線・氷見線の各駅や沿線において、花のある景観づくりを行い、季節ごとの魅力創出を図るとともに路線への愛着を醸成する。
④ 取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ■城端・氷見線の各駅への花植の実施 ■車窓からの眺望が楽しめる景観づくり

(7) 事業一覧

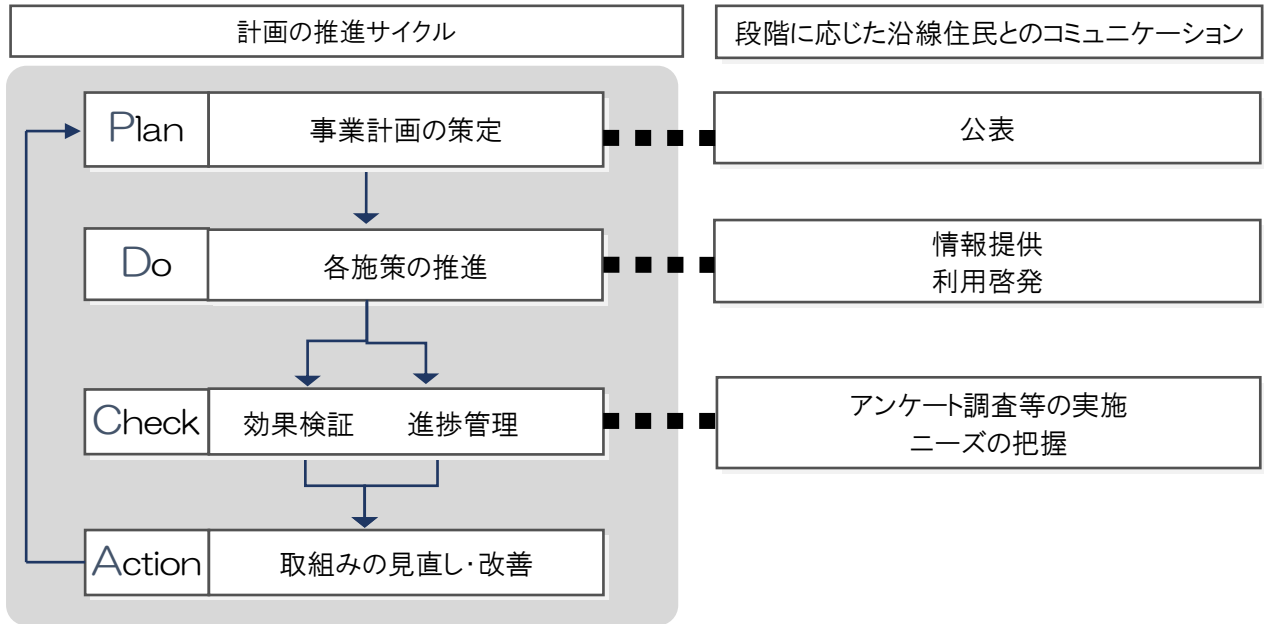
No	形成計画での 取組み	【連携計画での 位置付け】	実施年度					目標との関連 (●:強く関連 ○:関連)					基本方針との関連 (●:強く関連 ○:関連)		
			29	30	31	32	33	①乗車 人員	②定期 外利用	③人口カ パー率	④乗継ぎ 満足度	⑤過去1 年の利用	生活 利用	交流 拡大	将来の まちづくり
1	利用向上につな がる車両の検討	【車両の内 装のリニュー アルの検討】	■	■	■	■	■	●	●	○		●	○	●	○
2	新幹線開業後の 運行本数増便の 検討	【車両導入も 考慮した運 行本数増便 の検討】	■	■	■	■	■	●	●	○	●	●	●	○	●
3	交通ICカード利用 拡大に向けた課 題整理	【交通ICカー ドの導入に当 たっての課 題整理】	■	■	■	■	■	●	●	○	●	●	●	●	○
4	城端・氷見線の直 通化に向けた検 討	【城端線・氷 見線の直通 化の課題整 理】	■	■	■	■	■	●	●	○	●	●	●	●	●
5	あいの風とやま鉄 道、万葉線との接 続性の向上 【地域交通】	【輸送サービ ス向上】	■	■	■	■	■	●		○	●		●	○	●
6	北陸新幹線との 接続性の向上 【広域交通】	新規	■	■	■	■	■	●	●	○	●		○	●	●
7	観光列車等とのタ イアップ 【観光交通】	新規 【観光資源 の活用】	■	■	■	■	■	●	●			●		●	○
8	利用者ニーズに 合わせたバスの 運行ルート、ダイ ヤの検討 【地域生活路線】	【バスとの乗 換え円滑化】	■	■	■	■	■	●		●	●	●	●		●
9	広域バスネットワ ークとの連携強化 【広域生活路線】	新規	■	■	■	■	■	●		●	●	●	●	○	●
10	観光路線バスの 運行 【観光路線】	新規	■	■	■	■	■	●	●		●	●		●	○
11	終着駅の魅力向 上	新規	■	■	■	■	■	●	●	○		●		●	●
12	駅施設整備及び 駅周辺整備	【駅施設整 備及び駅周 辺整備】	■	■	■	■	■	●	●	●			●		●
13	観光周遊ルートの 作成	新規	■	■	■	■	■	●	●		●	●		●	○
14	沿線でのイベントと の連携	【沿線各自 治体とのイ ベントの連 携】 【万葉線との 連携】	■	■	■	■	■	●	●			●		●	○
15	観光用フリー Wi-Fi スポット設 置	新規	■	■	■	■	■	●	●					●	○

No	形成計画での 取組み	【連携計画での 位置付け】	実施年度					目標との関連 (●:強く関連 ○:関連)					基本方針との関連 (●:強く関連 ○:関連)		
			29	30	31	32	33	①乗車 人員	②定期 外利用	③人口カ バー率	④乗継ぎ 満足度	⑤過去1 年の利用	生活 利用	交流 拡大	将来の まちづくり
16	モビリティマネジ メントのPR	新規	■	■	■	■	■	●	●			●	●		○
17	公共交通案内の 作成、PR (紙ベース、ホー ムページ等)	【乗換案内 の充実】	■	■	■	■	■	●	●			●	●	●	○
18	公共交通利用者 へのインセンティ ブ	新規 【城端線・氷 見線の利用 補助制度】	■	■	■	■	■	●	●			●	●		●
19	駅施設の有効活 用	【駅施設整 備及び駅周 辺整備】	■	■	■	■	■	●	●	○			●		○
20	城端線、氷見線 グッズ作成	新規 【観光資源 の活用】	■	■	■	■	■	●	●			●	●	○	
21	利用者マナーの 向上	新規	■	■	■	■	■	●	●			●	●		○
22	駅への愛着醸成	【地元ボラン ティアによる 環境美化】	■	■	■	■	■	●	●			●	●		○
23	花のある景観づく り	新規	■	■	■	■	■	●	●			●	●	○	

6.7 PDCA サイクル

- ・本計画に掲げる取組みを効果的に実施していくため、PDCAサイクル（計画の策定～各施策の推進～効果検証・進捗管理～取組みの見直し・改善）による進行管理を行う。沿線地域を取り巻く環境の変化も勘案しながら、効果検証及び進捗管理、取組みの見直し、改善を行い、本計画に掲げる基本方針と5つの目標の達成に向け、取組みを進めていく。
- ・取組みにあたり、沿線住民への情報提供、施策の周知、利用啓発の呼びかけ、ニーズの把握等により、自治体、交通事業者、関係団体、沿線住民相互のコミュニケーションを図っていく。

(1) PDCAサイクルの実施



(2) PDCAサイクルの実施体制

- ・施策の効果検証・進捗管理、取組みの見直し・改善等は、沿線市が中心となり実施する。毎年の取組み内容を協議会（総会）で報告し、交通事業者、関係団体の確認を受けるほか、沿線住民の意見も反映しながら、より効果的な施策の実行に繋げる。
- ・計画期間終了時又は計画の変更時に、本計画の達成状況の評価を行う。未達の課題と新たな課題を整理し、環境の変化と利用者ニーズに柔軟に対応し、施策を展開していく。

